



福島小学校だより

ふくしま

No. 6
令和2年6月30日

ホームページ <http://www9.wakayama-wky.ed.jp/fukushima/>



一生のうちに読める本は

6月15日から通常授業に戻り、朝の読書タイムが始まりました。掃除の後10分間静かに本を読む時間です。絵本、図鑑、お話の本・・・子どもたちはいろんな本を手に入れています。

小さい頃に読んだ本で、心に残っている本は一生の宝物になります。成長して大人になってから読むと、また違った発見があっておもしろいものです。

さて、一生のうち何冊くらい本が読めるのかという話を聞いたことがあります。1年間は365日でいたい52週間くらいです。1週間に2冊として1年間で約100冊、10年間で1000冊です。50年読み続けても5000冊にしかなりません。一説によると毎年7万点以上の本が出版されるということです。そう考えると人が一生のうち読める本は、限られていることがよくわかります。

だから、読む本一冊一冊を大切にしたいものです。本の中では、過去でも未来でもどの時代にも行けます。外国でも宇宙でもどこへでも行けます。別の人でも動物でも何にでも変身できます。いろんな人の嬉しい気持ち、悲しい気持ちを知ることができます。心が栄養でいっぱい満たされます。

本校で平成26年度から続けている「うちどく」の表彰も、7月から取り組みを再開します。まずは10冊読書したら認定証を渡します。どんどん本を読んで読書カードを持ってきてくれるのを待ちます。読書も暗唱も、おうちでも励ましてください。よろしくお祈りします。

個人懇談について

今年度家庭訪問は中止となり、学習参観も残念ながら一度も実施できていません。そこで、保護者の方と担任がお子様の様子についてゆっくり話せるように、8月4日～6日に個人懇談の機会を設けたいと思います。詳しくは後日学校からのおたよりをお渡ししますのでよろしくお祈りいたします。

7月8月の学校行事予定です。

1(水)交通・挨拶指導 委員会活動6限(4・5・6年) いじめなくそうデー 河北地区子どもを育てる協議会	14(火)内科健診(1～3年)13:30～ 14(火)15(水)集金日 21(火)眼科健診 13:00～ 23(木)海の日	8月の主な学校行事予定 8/4(火)個人懇談会13:30～ 8/5(水)個人懇談会13:30～ 8/6(木)個人懇談会13:30～ 8/7(金)1学期終業式 8/17(月)2学期始業式 8/8(土)～16(日)は、学校を閉めます。
2(木)市教育委員会学校訪問 3(金)ALT来校日 9(木)情報モラル教室 2限3・4年 3限5・6年	24(金)スポーツの日 27(月)スクールカウンセラー来校 28(火)内科健診(4～6年)13:30～ 31(金)一学期給食終了	
13(月)スクールカウンセラー来校 キッズサポート教室 3限2・5年	今年の福島サマーフェスティバルは、中止です。	

絵本「いたずらビリーとほしワッペン」

ビリーは おおなきです。

「ようちえんになんか、いきたくないよー。」

「いけば、きっと、おもしろいよ。」

おとうさんと、おかあさんが いいました。

「いいこにしていたら、ほしのワッペンが もらえるよ。」

ヘイゼルも、いいました。

「おはよう、ビリー。ようちえんは たのしいのよ。ビリーも きっと、いいこに
してられるわよ。」

せんせいが、いいました。

という書き出しで、このお話は始まります。



ビリーは、幼稚園へ行って、まず、絵を描きました。絵の具のびんを投げつけて、紙も机もべたべたにしてしまいます。

先生は何と言ったでしょう。先生は、「みんな、みてごらんさい。こんな、ぎよつとするような、かいじゅうらしいえは、はじめて みたわ。」

と言って、ビリーにほしワッペンをひとつあげました。

幼稚園では、他にも歌を歌ったり、ダンスを踊ったりしました。ビリーは、どんな歌を歌い、どんなダンスを踊ったのでしょうか。

お迎えのとき、ビリーはうちへ帰りたくなくて、また、ものすごい声で泣いています。幼稚園へ行きたくなかったビリーが、今度は、家に帰りたくないと泣いているのです。

どうして、ビリーは、また泣いているのでしょうか。

この絵本の作者は、イギリス出身の「パット・ハッチンス」さんです。残念ながら、2017年に亡くなられたそうです。いたずらかいじゅうのシリーズは、合計4冊あります。

この絵本の訳者は、「いぬい ゆみこ」さんです。紹介文の中で、こう書いています。

「一略」。幼稚園では、ビリーが悪いことをすればするほど、先生は感心して……。そうですとも、ここは、かいじゅうたちの幼稚園なのでから！」

(人権教育部より) *出典「いたずらビリーとほしワッペン」パット・ハッチンス作、乾侑美子訳(偕成社)

